

石川病薬 ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和2年(2020)/3.31 発行 No. **173**

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第30回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・委員会報告
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引



〔巻頭言〕

地域の中核病院としての取り組み ～病院薬剤師の使命～

石川県病院薬剤師会 理事 高本美由喜 …… 1
 公立松任石川中央病院 薬剤室長

〔第30回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

発表者報告

心房細動カテーテルアブレーション周術期におけるDOACのダビガトラン置換の影響と薬剤管理指導における今後の課題	金沢医療センター 杉浦さくら ……	3
ナファモスタットメシル酸塩による高カリウム血症のリスク因子の検討	金沢医療センター 有原 大貴 ……	5
MEPM適正使用にむけた取り組みについて	石川県立中央病院 渡辺真梨奈 ……	7
津幡地区における薬局との連携による健康フェアの取り組み	河北中央病院 谷山 徹 ……	9
金沢医科大学病院におけるPFM (Patient Flow Management) への薬剤師の取り組み	金沢医科大学病院 今川 静代 ……	11
抗がん剤閉鎖式薬物移送システム導入効果の検討	金沢医科大学病院 窪田 充泰 ……	13
入院時の持参薬切り替えにおける院内フォーミュラリー導入効果の検証	石川県立中央病院 中村 沙綾 ……	15

〔薬局の窓口から (77)〕

調剤過誤への取り組み ～一包化錠剤鑑査支援装置の導入～

公立能登総合病院 水上 徳博 …… 17

〔エキスパートに聞く! ～輝く石川のキラ星～ (15)〕

リウマチ財団登録薬剤師 やわたメディカルセンター 梅元 晃美、中出奈津子 …… 19

〔委員会報告〕

ホームページ委員会

ホームページ委員会活動内容について 石川県済生会金沢病院 角 紀一郎 …… 22

精神科病院委員会

令和元年度第1回精神科病院委員会研修会報告
 金沢医科大学病院 清水 善仁 …… 24

感染制御委員会

第16回石川県感染制御セミナー開催報告 浅ノ川総合病院 笹山 潔 …… 26

中小病院委員会

第32回中小病院薬剤師会 施設見学研修会報告 千木病院 山田 智明 …… 35

がん治療委員会

第35回がん薬物療法セミナー報告 KKR北陸病院 猿谷 淳 …… 37

感染制御委員会

第17回石川県感染制御セミナー開催報告 石川県済生会金沢病院 後藤 義之 …… 39

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 …… 41

〔南船北馬〕 …… 42

〔寄稿〕

「古寺との結縁-50」愛宕念仏寺・二尊院 ～京で初もうで (後) 東山から嵯峨野へ～
 院瀬見義弘 …… 43

〔病薬ニュース索引〕 …… 47

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページのパスワードが新しくなりました。

表紙写真 撮影
 : 熊走 尚志

四百年の桜

意外と知らない人が多い桜の名所。
 毎年訪れ癒されています。
 もう一つはカワセミ。
 何日も通い、何時間も待ち続けて会えた瞬間のときめきは……
 次はホバーリング、池に飛び込む瞬間等欲が。

巻頭言

地域の中核病院としての取り組み ～病院薬剤師の使命～

石川県病院薬剤師会 理事 高本 美由喜
公立松任石川中央病院 薬剤室長

春光うらかな季節となりましたが、石川県病院薬剤師会会員の皆様にはご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年は東京オリンピックの開催に、日本中が歓喜に溢れているのではないのでしょうか。

2018年12月現在、在留外国人数は273万人を超え、前年同月と比べ約17万人（6.6%）増加となり過去最高となっています（法務省：在留外国人統計表より）。さらに、国は労働力の強化のために外国人受け入れ制度を2019年4月にスタートさせており、訪日外国人・在留外国人は今後も増え続けていきます。そこで医療機関が外国人患者を受け入れる際には、医療通訳サービスや感染症対策、医療費未払い金対策などの課題があります。

2020年度診療報酬改定の基本方針では、4つの「基本認識」が示されました。基本的には前回改定の内容が踏襲されており、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築や、医師等の働き方改革の推進、効率化・適正化による社会保障制度の安定化・持続可能の確保等がテーマとなっています。ただ、前回と異なるのは「医師等の働き方改革の推進」が重視されている点で、2024年4月からの医師の時間外労働の上限適応に備え、医師等の負担軽減が図られる方向です。

△基本的視点1：医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進

△基本的視点2：患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現

△基本的視点3：医療機能の分化・強化・連携と地域包括ケアシステムの推進

△基本的視点4：効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上

公立松任石川中央病院では小型翻訳機を導入し、バングラディッシュやパキスタンの方々の診療を行っており、薬剤師も持参薬の確認や自己注射の手技指導等に携わっています。また、2017年度から看護師特定行為研修を開始しました。薬剤師を含め多職種で演習に参画し、医師業務のタスク・シェアリング・シフティングやチーム医療等に取り組んでいます。そして、業務の効率化に資するICTの利活用の推進も行っており、将来的にはオンライン診療・服薬指導に繋がると考えています。

当院は住民の健全な生活をサポートするため、5疾患5事業に加え、近年喫緊の課題となっている在宅医療の充実を目指し、地域完結型の医療提供体制の構築に力を注いでいます。特にがんについては、早期発見から診断、手術、化学療法、放射線治療に至るまで切れ目のない診療体制を整えています。最新型のPET/CTをはじめとした高度医療機器を配備し、自院で製造した放射性医薬品の品質検定は、薬剤師が行っています。

改定の具体的方向性には病院薬剤師の評価、医師・病院薬剤師と保険薬局薬剤師の共同の取り組みによる医薬品の適正使用の推進が記されています。実際に、緩和ケアを含む質の高いがん医療が評価されました。当院では院内の緩和ケアチーム研修会に、2019年度より保険薬局薬剤師も参加可能となりました。

当薬剤室は2019年度から病院・保険薬局連携セミナーを始めました。実際に処方箋を交付する当院の医師からは病態、最新の診療、保険薬局薬剤師に望むことなどの講演を、当院薬剤師からは入院患者の症例提示をし、多くのことを学べたと好評を得ています。また、当院薬剤師の指導の実際をグループワーク形式で紹介するなど、顔の見える関係を築くための活動としてスタートしました。第1回は心臓病、第2回は糖尿病をテーマとし、多数の白山のいち薬剤師会の会員、近隣の病院薬剤師の先生のご参加をいただきました。今後は外来がん化学療法や緩和など、保険薬局薬剤師ががん患者に対応するため不足している情報を共有し、連携を推進していこうと思います。

地域のニーズに応え、住民の健康を守っていくことが薬剤師の使命です。今後も病院・保険薬局の薬剤師が共同で、積極的に新しいことに挑戦していく必要があると考えています。石川県病院薬剤師会会員の皆様には、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

